
黒翼の魔法使い

Lily

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒翼の魔法使い

【Nコード】

N9214Z

【作者名】

Lily

【あらすじ】

とある城で働く魔法使いは、残業続きの毎日に嫌気がさし、転職を希望する。鬼畜の宰相様に無理やり転職させられた仕事は、勇者の仲間の魔法使いになることだった。しかし、魔法を使えるはずの勇者に魔法の才能はない上に、魔法を使えるように見せなければならぬ。それに、本人はそのことを知らない。やけに魔法を使いたがる勇者のために、陰で必死に魔法を使う魔法使いの仕事が始まった。

【プロローグ】（前書き）

三作目です。

完結できるように頑張りたいと思います。

【プロローグ】

百年と少し前、圧倒的な魔力を持ったモンスターが現れた。モンスターは瞬く間に他のモンスターを従え、魔王と呼ばれるようになった。

竜の翼、狼の牙は人間を震えあがらせた。

「はっはあ！ 食っちゃまうぞてめえら！！」

大好物が人間の、恐るべき捕食動物を倒したのは、一人の勇氣ある人間。

「そんなに食べたなら腹壊すぞ！！」

誰かが彼をこう呼んだ 勇者と。

勇者は少数の仲間と魔王を倒し、世界に平和が戻った。

戻った、はずだった。

魔王の意思を引き継いだ者たちが、現れたのだ。

【手紙は尽きない】

残業百時間。

四日と四時間である。

ありえねえ。

ストライキでもしてやろうか。

「おつす、アストー。残業頑張れよー」

そう言っつてベッドに入り、ぐーすかと寝息を立て始めたのはカール・ヘッグ。

金の短髪、今は閉じられている青い目。

中肉中背の体には、田舎にいる妹から送られてきたという奇抜なファッションのパジャマを着ている。

カールは憎たらしいくらい幸せそうな顔で寝ている。

危うく顔を踏み潰しそうになった自分をなんとか抑え、机に置かれている山のような手紙に目を通す。

一枚目 とある町の少女さんから

最近肩こりがひどいです。だれかマッサージしてくれる人紹介してください。

知るか。少女のくせに肩こりなんかするな。

丸めてごみ箱に投げ入れた。

二枚目 隣町の肉屋から

肉がまずいってクレームが来ました。おいしくする方法を教えてください

ください。

まずい肉屋なんか潰れてしまえ。
また丸めてごみ箱に投げ入れた。

三枚目 夢の世界の住人から

……読んだらきつと目が腐る。

ごみ箱に投げ入れると、入りきらなくて落ちた。

ついに、ごみ箱もごみを拒否し始めたようだ。

僕の所属している国王直轄の組織、デルバルト国民の悩みを解決しよう会。

通称デル会。

このふざけた名前の組織は、国民から寄せられる様々な問題を解決するためだけに発足された会だ。僕はその会長。

部下が動く必要がある問題と、そうでない問題を分けるのが仕事だ。

簡単そうに聞こえるこの仕事、実は百本ダツシユよりも大変な仕事だ。

国民から送られてくる手紙は一日に千通を越え、しかもほとんどがごみ箱行きのくだらない内容。

まともな手紙は一割にも満たない。

しかも、仕事があっても動くのは僕の部下。

僕は毎日手紙とにらめっこ。

「いつそ転職でもするかな……」

僕の脳みそは限界に近づいている。

その疲れ切った脳みそに鞭を打ち、今夜も僕は手紙と格闘するのだ。

【宰相様はたまにいい人】

「生きてるかー？」

カールの声が頭に響く。

僕は昨晚ストレスの爆発するままに未読の手紙は床一面にばらまき、机に突っ伏し、ひとときの休息を味わっていた。

「……もう無理だ。僕は転職する」

「そうはいきません」

カールとは違う低い声に、顔を上げる。

そこには、ちよび髭を生やし、黒い燕尾服を着ている男がいた。この国の宰相様、エレシュ・ハウンドである。

抱えた段ボールの中に入っているのは、目を背けたくなる量の手紙。

「僕は何も見なかった……。黒い悪魔も、白い悪魔も」

だが、宰相様は手紙の入った段ボールで、もとい黒い悪魔は白い悪魔で僕の頭を叩き、天使様の元へ行かせてくれない。

「天使の所に行く時は、あなたの脳みそが腐る時です」

そう言っつて机の上に大量の手紙を置く姿は、まるで溜まりに溜まった鬱憤を晴らした後のようにすがすがしかった。

「鬼……悪魔……」

「ま、せいぜい頑張ってください」

「……おいこら！ 助手ぐらい付けるよー！」

「そうそう、面白い話があるんですけど」

僕の話なんてまるで聞こえないという風に、宰相様は別の話を切り出した。

「どうせろくな話じゃないだろ……」

仕事が増えるとか。

仕事が増えるとか。

仕事が増えるとか。

「いえいえ、転職先があるんですけど。それに、給料は今より多くなるはずですよ」

「ほらやっぱり仕事が増え……転職！？」

僕のはじけるように顔を上げ、宰相様を見上げた。

少しハゲ始めた頭が輝いて見えるぜ宰相様！

「転職したいなら、私に着いて来ててください」

「イエッサー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9214z/>

黒翼の魔法使い

2011年12月29日11時53分発行